

令和6年度

上勝小学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○学習活動を充実させるための授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 上田 早代	委員 校長:川村 恭弘 教頭:森岡沙緒里 研修主任:古田 有美
------------------	--

校長

川村 恭弘

【小中連携または中高連携における共通の取組】

小中9年間を見通し、指導の一貫性をもたせた教育活動

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○まじめに課題に取り組み、自分のペースで課題を行うことができる。 ●基礎学力の定着に個人差がある。	・問いの意図を正しく理解することができる。 ・基礎的・基本的な学力を身につけ、習得した知識や技能を他の学習や生活の場面において活用することができる。	・読書に関わる時間を確保し、語彙を増やす。 ・宿題や小テストを活用し、復習の機会を増やす。	・ブックリストや新聞等を活用し、読書量と語彙を増やす。 ・引き続き、宿題や小テストを活用し、復習の機会を増やす。	・ブックリストの活用は、学年によって差が見られた。 ・小テストを活用し、児童が復習する機会を増やすことで基礎的・基本的な学力をおおむね習得できた。	・読書活動や国語辞典を活用した活動を充実させる。 ・引き続き、小テストを活用し復習をする機会を増やす。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを様々な方法で表現できる児童が多い。 ●身に付けた知識を思考に生かしたり、自分の考えを簡潔に表現したりすることに課題がある。	・各授業において課題等に対して、話し合い活動等を通して、解決する方法を考えることができる。 ・身に付けた知識・技能を生かして自分の考えをまとめたり、表現上の工夫をしたりすることができる。	・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動を設定する。 ・目的や伝えたい内容に合った関連する既習内容を提示する。	・ICTを使って説明ができるようになってきた。引き続き、ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動を設定するとともに、ペアでの話し合いから全体への話し合いに広げるなど、段階をおって話し合う活動を行う。	・自分の意見を伝えられるようになってきた児童は多い。しかし、相手を意識した伝え方や、相手の意見から自分の考えを再構築することに課題がある。 ・児童から教師に向けて発表するような形式が増えてしまった。	・相手を意識した伝え方や、自分の考えをまとめる時間を十分に確保する。 ・児童から児童へ発表する環境を整える。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自発的に読書に取り組む児童が多い。 ●自分で課題を見つけたり、進んで解決したりすることに課題がある。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習状況を振り返り、自分の課題を見つめ直すことができる。	・児童の発言から本時のめあてを作成したり、次時につながる振り返りを行ったりして、課題意識をもたせる。 ・自分の言葉で発表する機会を増やす。	・引き続き、児童の発言から本時のめあてを作成したり、次時につながる振り返りを行ったりして、課題意識をもたせる。 ・相手意識をもった発表の場づくりを心がけ、自分の言葉で発表する機会を増やす。	・発言からめあてを作成することはできたが、振り返りに時間が取れないことがあった。 ・学習状況を振り返ることにより、課題を主体的に家庭で行うことができた。	・自分の現状を認識し、判断したことを基に振り返りを充実させる。 ・家庭との連携を引き続き行う。

令和6年度 学力向上ロードマップ

